

# 新徐福堂 今山八幡宮に開設

## 祇園町から移転 記念セレモニー

延岡



日本渡来伝説で知られる徐福の像を設置する新徐福堂の記念セレモニーが7日、延岡市山下町の今山八幡宮（伊藤俊郁宮司）であり、関係者や地元住民が新たなお参りスポットの開設を喜んだ。

式典には関係者約20人が出席し、開設を主導した祇園町銀天街の平吉正樹代表や延岡徐福伝説承



承会の亀山勉会長、今山八幡宮総代会の谷平興二会長らが除幕。伊藤宮司による神事もあり、出席者が玉串をささげた。

祇園町銀天街と延岡徐福伝説承会は2008年、活動の一環として徐福像を制作。併せて銀天街の一角に像を収める徐福堂を設けて管理してきた。平吉代表は堂の設置から10年が経過したこと

に触れ「徐福と縁の深い

「徐福伝説の碑」があり、同碑に隣接する形で設置されている。

徐福は古代中国の方士（博学の占術師）。紀元前220年ごろ、秦（しん）の始皇帝の命を受けて不老不死の仙薬を探し求め、日本に渡来したといわれている。訪問場所とされる伝承地は国内各地にあり、かつて徐福が探していた山と同名の「蓬萊（ほうらい）山」と呼ばれた延岡の今山もその一つ。同所には徐福が船をつないだといわれる「徐福岩（船つなぎ岩）」も残っている。

原町から訪れた新田正江さん（74）は「徐福さん（の像）もいい顔をしていて、地元ゆかりの人だけど、詳しくは知らないので調べてみたい」と話した。

新徐福堂は高さ約3メートル、幅と奥行き約2メートル、屋根瓦はFRP（繊維強化プラスチック）製。今山八幡宮境内には、のちに伝承会を結成する地元

期待を寄せた。

2019. 12. 17